中部支社　NAGOYA
〒460-0013
名古屋市中区上前津1丁目4番12号
上前津グリーンビル
TEL（052）331−3371　FAX（052）331−3374

中日本ネットワーク
東海・信越・北陸

JAPAN METAL BULLETIN Local Network

坂部社長

ここ最近、静岡市内でも局所的に線状降水帯が発生し、豪雨となるケースが相次いでいる。同社では従前から油水分離槽を設置し、スクラップから生じる油などの処理を適切に行ってきた。近年の豪雨に伴う、都市部でも大規模水害が発生する危険性が高まっていることも視野に入れ、油水分離槽を大型化する

業場に雨よけの屋根などの設置なども検討し、悪天候時での作業

につなげていく。

非鉄金属スクラップの取扱量は月間150

みを進め、高い注目を集めている。

本社ヤード

JOGMECとINPEX
新潟・柏崎市に実証設備
水素・アンモニア製造　CO₂圧入利用

エネルギー・金属鉱物資源機構（JOGMEC）とINPEXはこのほど、新潟県柏崎市で進めるクリーンな水素・アンモニア製造および枯渇ガス田への二酸化炭素（CO₂）圧入利用の一貫実証試験において、水素・アンモニア製造設備「柏崎水素パーク」が開所したと発表した。

INPEXは、同社の南長岡ガス田（同県長岡市）で生産された天然ガスを原料として柏崎市の東柏崎ガス田平井地区へ輸送し、平井ガス採収所（柏崎市）において水素・アンモニアを製造することを計画する。この際に副次的に生産されるCO₂を分離・回収し、生産が終了した同地区の枯渇ガス貯留層へ圧入する計画だ。

この一貫実証試験は、国内で生産される天然ガスを利用してCO₂を発生しないクリーンなエネルギーである水素・アンモニアを製造することを目指し、製造から利用まで一貫して実施する日本初のプロジェクト。JOGMECとINPEXが実施しているCO₂圧入実証は、圧入操業における知見の獲得と、国内枯渇ガス田のCO₂貯留量の把握に資する知見を得ることを目的とする。

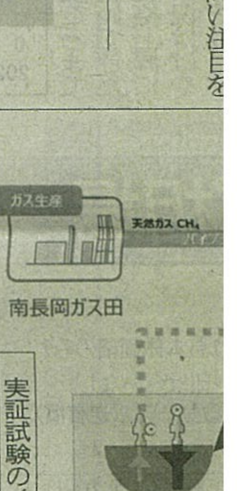
これまでにCO₂圧入井、EGR（ガス増進回収）生産井、観測井の3つの坑井の掘削作業を完了している。水素・アンモニア製造設備の稼働に合わせてCO₂圧入操業を開始する計画で、圧入にあたっては安全な操業と圧

同実証試験にお

て、天然ガスを原料とした水素・アンモニア製造およびCO₂回収の実証試験については、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）から採択された補助事業のもとでINPEXが進める。

への圧入については

2022年にJOGMECとINPEXが締結した「天然ガス利用等における低炭素化を目的とした国内枯渇油ガス田を活用したCO₂貯留可能量把握に関する実証試験」に関する共同研究契約のもとで実施している。



実証試験のイメージ

中部経産局9月動向
判断6カ月据え置き
持ち直しも生産足踏み

中部経済産業局はこのほど、9月指標を中心に最近の管内（富山、石川、岐阜、愛知および三重の5県）総合経済動向をまとめ、総括判断を6カ月連続で「持ち直しているものの、生産面に足踏みがみられる」とした。

各指標の判断では、生産は鉱工業生産指数（9月速報）が、生産用機械工業、輸送機械工業等がマイナス寄与となったものの、電子部品・デバイス工業、プラスチック製品工業、汎用機械工業などがプラス寄与となったことから、前月比プラス1・2％と2カ月連続の上昇となった。前年同月比はプラス3・1％と3カ月ぶりに上昇した。

業種別動向では、主力の輸送機械工業は、自動車の生産は堅調なものの、一部車種の切り替え遅れなどの影響がみられることから、緩やかな持ち直しに足踏みがみられる。生産用機械工業は、金属工作機械などで設備投資

るとした
なお、金属製品生
産は「弱含みとな
いる」と判断を据
いた。アルミニウ
材は、新設住宅着
数が伸び悩み、ビ
けの需要も減少し
ることから弱い動
なっており、暖
房熱機器やばね
いとなっている。
生産は、自動車向
要は横ばい推移
り、産業機械や工
械向けなどの需要
い状態が続いて
とから、「横ばいと
ている」とした。
個人消費は、9
管内商業動態統計

外山鋼業
豊川市・Hグレード

愛知鉄構工業協組　設立から半世紀
インフラ支える鉄骨ファブ
大型新築と改修 両輪で

外山社長

外山鋼業（本社＝愛知県豊川市、外山典弘社長）は、確かな技術力と安定した生産体制を強みに、大型物件から改修・耐震工事まで幅広く手掛けるHグレード鉄骨ファブリケーター。1979年の創業以来、主要取引先である竹中工務店との長い取引の中で技術力を磨き、難度の高い構造物の鉄骨製作にも対応できる体制を構築している。

同社は2007年に現在地に移転し、約1万8000平方メートルの敷地に工場を建設。設備投資を重ねて生産効率の向上と大型物件への対応力強化を図り、翌08年にHグレード認定を取得した。足元では22年に製品ヤードを拡張し、25メートル×100メートルの新ヤードを整備。門型大型クレーン2基を備え、全数検査への対応や製品搬送の効率化を実現した。

設備面では、最大1000ミリサイズまで可能な柱大組立用ロボット2基と、同サイズ対応のコア連結用の溶接ロボット2基を中核に、一次加工ラインや各種検査装置などを配置して鋼材加工から鉄骨製作までの一貫体制を確立。月産能力は約1000トンで、近年増加する大型物件による鉄骨の大型化が進む中、効率的かつ安定的な生産を実現している。

これまでに手掛けた物件は、エスパシオナゴヤキャッスルの新築工事をはじめ、栄地区のランドマークである超高層ビルの建て替え案件、大型物流倉庫や工場など。また、名古屋テレビ塔の改修工事も手掛けるなど、新築の大型物件と耐震・改修工事を両輪で受注できる点を強みとする。

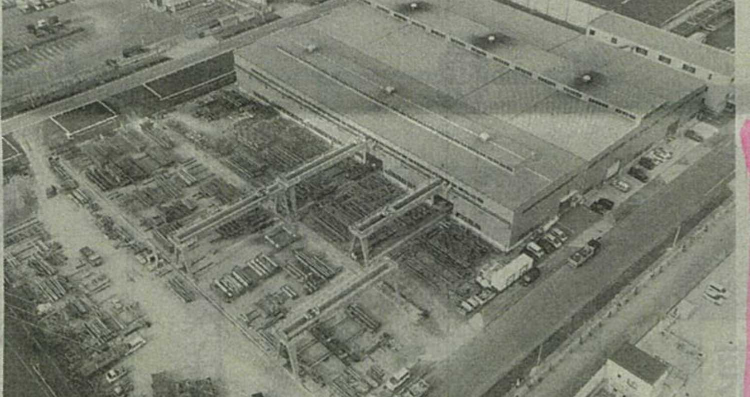
人材面では、製造、検査、図面など幅広い業務で日本語に堪能な外国人社員が活躍しており、中国、ベトナム、ブラジル、ペルー、スリランカ、アフガニスタン出身者など多国籍で構成。現在は全体の約4分の1を外国人社員が占める。近隣では自動車関連工場との採用競争もある中で、口コミや紹介による入社が多く、国籍や経歴に関係なく実力を評価する風土など、安心して働ける職場環境が整っている。

今年から地元高校生を対象としたインターンシップも開始した。9年前から地元工業高校を対象に工場見学会を開催するなど、新卒者の採用活動に注力してきたが、少子高齢化などで採用環境は年々厳しくなっている。建設業の魅力を広く知ってもらうため、会社説明や工場見学から、CAD体験や鉄骨組立実地体験、若手社員との交流、同社が製作した鉄骨を使用する建設現場の見学まで2日間にわたって行った。

今後も人材採用につながる取り組みを進めるとともに、溶接ロボットのさらなる大型化や一次加工ラインの更新などを検討する。働きやすい環境づくりと確かな技術力を軸に、持続的な成長体制の構築を目指していく。

（菊川　熙大）

【企業概要】
▽本社＝愛知県豊川市御津町佐脇浜3号地1－41
▽電話＝0533－77－2988
▽代表者＝外山典弘
▽従業員＝50人
▽主要設備＝柱大組溶接ロボット2基、コア溶接ロボット2基、形鋼自動切断機3基、形鋼NCドリルマシン1基、開先加工機4基、ショットブラスト1基など



会社外観

名ス協10月店売り
鋼板在庫8741トンに減少

名古屋ステンレス流通協会はこのほど、2025年10月の店売りステンレス鋼板在庫をまとめた。それによると、板、鋼帯をまとめたトータルは8741トンとなり、前月から65トン（0・7％）減少した。

板は0・5ミリ以下（紙管巻含）が119トンで前月比26トン増加。0・5ミリ超−2・9ミリ）が2450トンで107トン減少した。3・0ミリ以上は950トンで95トン増加した。鋼帯はみがき鋼帯は57トンで7トン増加した。その他冷延鋼帯は5165トンで86トン減少、熱延鋼帯は0トンで増減はなかった。

定尺板（内数）は合計3195トンで24トン増加した。内訳は0・5ミリ以下（紙管巻含）が92トンで26トン増加。0・5ミリ超−2・9ミリは2316トンで78トン減、3・0ミリ以上は787トンで76トン増だった。

売上高は前月に比べて増加が8社、横ばいが4社、減少が1社。

売り値は値上がりが0
社、横ばいが10社
下がりが2社。仕
値は値上がりが1
横ばいが10社、値
りが1社で、市中
要の底打ち感が見
れる結果となった

プレゼン技術テーマに研修
在名特殊鋼3団体

全日本特殊鋼流通協会名古屋支部・静岡支部、特殊鋼倶楽部名古屋支部、名古屋ステンレス流通協会は19日、名古屋市中村区のインテックの研修室で生産性向上研修を開催した。当日はプレゼンテクニックをテーマにした研修が行われ、会員企業から13人が参加した。

同研修は全特協と特殊鋼倶楽部の人材育成委員のアンケートにより、上位の研修テ
を選定して開い
り、今回が本年度
回目。

席上あいさつし
務局代表は、「本日
ーマはパワーポイ
の操作方法とプレ
のテクニック。本
ーチューブでも学
とが可能だが、実
る講師から学んだ

プレゼンテクニッ
どを学習した